



口加だより

平成29年11月30日発行
長崎県立口加高等学校
第8号

あやめが丘の窓から

温故知新

校長 下 釜 祐 保



先日、古い老舗旅館に泊まった。和室だった。床の間に「温故知新」と書かれた掛け軸があった。誰の書か、力強い文字だった。論語の言葉である。読みは「おんこちしん」。「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」と訓読し、意味は「前に学んだことや昔の事柄をもう一度調べたり考えたりして、新たな道理や知識を見出し自分のものにする」と手元の辞書には載っている。

「温」は「たずね求める」の意。一説には「冷たいものを温め直し味わう」意があるそうだ。カレーは、2日目に温め直したものが最もおいしいなどの都市伝説もあるようだが、寝かせて熟成させたものにこそ、本質的な良さがあるのかもしれない。あのアップル社の創業者、スティーブ・ジョブズ。現在の i-pad や i-iphone のようなアイデアはかなり若い頃から持っていたらしいが、ジョブズが時代や技術、環境が整うまで温めていたから大ヒットしたという逸話もある。

さて、本年度も11月15日に「心に響く人生の達人セミナー」を実施した。講師には、本校昭和40年卒の(株)ケン・コーポレーション代表取締役社長・福田健蔵氏をお招きした。大先輩なる人生の達人がその人生の中で温めてこられた熱き思いを、若き後輩へ、これからの母校へメッセージとして語ってもらった。本校では、この事業を同窓会と共催行事として、卒業生の中から講師をお願いし「口加塾」と銘打って、開校記念日(11月16日)の前日に実施している。本校の強みの一つは、伝統校の力、同窓会の力、卒業生の力、そして、その多様性にある。この行事のねらいはまさしく「温故知新」なのである。

生徒諸君には、一人ひとりに自分自身の「温故知新」を意識してもらいたい。これまで培ってきた「古き良きもの(自身の長所)」を確認し、その上に自分の可能性を探ってもらいたいのだ。

自分の人生を自分の努力で切り拓くことの幸せ、自分の人生の最終決定者としての責任、自分という人生の主人公である自覚。

未来への可能性を秘めていることが、若者の持つ特権である。



学年だより

～第1学年より～

最近常に気になっている言葉があります。「国語力」です。きっかけは、生徒たちの言葉でした。「国語の勉強の仕方がわからないんですよー」華のJKだった当時の私も同感で、国語科のH先生に聞きに行ったのを思い出しました。「先生、国語ってどうやって勉強したらいいんですか？」H先生「本や新聞を読みなさい」私「へー」今でもありありと浮かんできます、職員室での問答。そしてそのまま聞き流した私でしたので、その後の国語の成績は言うまでもありません。聞き流したツケを払うため、自分なりに考えてみました。自分なりに、です。なぜ本を読むことが必要(国語力アップにつながる)なのか?本には沢山の言葉が書かれており、自分の語彙(言葉の貯金みたいなもの)が増えますね。他にも、言葉の使い方(どう言葉を選べば人に伝わるのか、又、目に見えない感情を人に伝えることができるのか等)も知ることができます。また自分が体験できない事を登場人物を通じて、仮想体験ができます(ファンタジー作品は人を異次元に連れて行ってくれますね)。本を読むということは、人の感性や感受性を豊かにし、耕された感性で人と関わり生きていくために必要な基礎を作ってくれるのだな、だからH先生は「本を読みなさい」と教えてくれたのだろうと。言葉は勇気を持って日常生活で使ってみることをオススメします。間違っと思い「うわーかっこつけて難しい言葉で話すからだよ」なんて言葉は気にしない。知って、使うことが大切です。今は亡きH先生、ツケは払えただしょうか・・・。

(1年2組副担任 山田 千賀)

～第2学年より～

四庫全書は清の乾隆帝の「世界中の書を集めよ」との命令により、中国全土に伝わるあらゆる書物を収集・整理して1,782年に完成した世界最大級の書物である。4千人にのぼる人々によって書かれ、3万6千冊が1セットとなっている。経(儒教の経典など)、史(歴史・政治・経済・地理など)、子(思想・宗教・天文・医学・薬学・技術書・百科事典など)、集(文学・文芸批評)の4つに分類していることから四庫全書と称される。文京区にある東洋文庫のモリソン書庫で、四庫全書の存目(未収録の文献)の複製を見ることができる。ここでは他にも15世紀に刊行された「東方見聞録」など、歴史の授業で学習した覚えのある書物を多数所蔵、展示している。館内の雰囲気は落ち着いて洗練されており、レストランも併設されている。

修学旅行に行く2年生の皆さん、楽しい思い出をたくさん作って来て下さい。そして、教室では体験できないことを一つでも多く学んで来て下さい。

(2年1組副担任 後田 昌彦)

～第3学年より～

生活創造コースの生徒にとって、「針」は欠かせない道具です。手縫い針、まち針、ミシン針・・・これらがなければ、被服技術検定の作品も、菖蒲祭で披露できたあのドレスも製作することはできません。この、針にまつわる風習に、「針供養」というものがあります。読んで字のごとく、古くなったり、折れたり曲がったりした針に、感謝をし、労いながら、豆腐やこんにやく等に刺して供養します。それと同時に、裁縫の上達を願うという側面もあります。12月になると、『どこそこの裁縫学校で針供養が行われた』というニュースを耳にすることがあります。物を大切に扱い、たとえ針1本であっても単なる道具としてだけではなく、そこには心があり魂も宿っているのだからと感謝の気持ちを忘れないという、日本人の美德を感じます。現代、私たちの周りにはたくさんの物が溢れ、“使い捨ての時代”とも言われますが、「針供養」のような風習は、私たちに忘れてはならない大切な何かを伝えてくれている気がします。

さて、生徒玄関に続く階段の途中には、たくさんの捨得物が、持ち主の所へ戻りたいと待っています。検定や受験を控えている皆さん、裁縫の上達を願うのであれば、まず裁縫道具を大切に、学力の向上を願うのであれば、まず勉強道具を大切にしてください。

(3年2組副担任 久部利恵子)

菖蒲祭「創造 ～伝統 継続 そして未来へ～」

10月28日(土)、本校で菖蒲祭(文化祭)が開催されました。今年度は『創造 ～伝統 継続 そして未来へ～』というテーマのもと、各学年、クラス、コース、部活動の特色を生かした出し物や展示で、感動あり、笑いあいの文化祭となりました。当日は大勢の保護者や地域の方々にご観覧いただき、大盛況の中、無事菖蒲祭を終えることができました。



有志のボイスパーカッション



展示作品も力作揃いです



グローバルコースの取組を説明



今年も口加の平和を死守!! 先生方も多数参加しました
生活創造コースファッションショー「幸 | wish your happiness」 観客を魅了しました



2年生は息のあったダンスを披露



11月の行事

校内弁論大会

11月9日(木)校内弁論大会を実施しました。各学年から代表として選出された4名の生徒が、それぞれに工夫をこらした意見や主張を堂々と述べていました。最優秀賞には2年2組の日向ひかるさん『プリンの食べ方』が選ばれました。



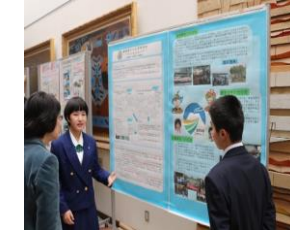
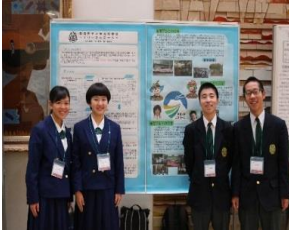
人生の達人セミナー

11月15日(水)第2回口加塾が行われました。講師に本校OBの福田健蔵様をお招きし、『夢の実現』というテーマでお話いただきました。福田様ご自身の陸上部時代の話や、目標実現のために何をすべきかをお話いただき、これから社会に羽ばたく生徒にとって、実り多い講話となりました。



今月のグローバルコース

11月4日、5日に島原市有明文化会館で行われた、サステイナブル・ツーリズム国際認証島原フォーラムでは、グローバルコース初となる校外での発表会に、Tourismグループの生徒が臨みました。直前まで時間をかけて準備し臨みましたが、フォーラムでは人前で自分の考えを発表する難しさを学びました。また、9日には校内で中間発表会を実施し、これから取り組む研究について、一人ひとりがパワーポイントを用いて発表を行いました。



♪今月の生活創造コース&1年家庭基礎玉成園訪問♪

10日(金)若木保育園訪問(2年生)

手作りのペープサート「6わのからす」を披露しました。



17日(金)乳幼児親子交流学習(2年生)

今年度4回目の乳幼児親子交流学習を行いました。保健師さんのご指導で、沐浴についても学びました。



《1年生》

8日(水)1-1 13日(月)1-2・1-3

家庭基礎の授業の一環として、玉成園を訪問し、利用者の方との交流や施設見学などを行いました。高齢社会の現状について考える良い機会となりました。



職員ペンリレー

英語科 村岡 拓治

3年生の推薦入試もいよいよ佳境を迎えています。よく面接練習に携わる機会があるのですが、その際本当に驚くことに、ほとんどの生徒が将来に対する明確なビジョンを持っています。私が高校3年の頃は、大学卒業後のことなど何も考えておらず、ただほんの少し得意だった英語をもっと勉強してみたいな、だけの思いでした。

大学の中で色々な経験をし、多くの人に出会う中で最終的に「先生」になれるよう頑張ってみようかな、と思ったのは教育実習中のある生徒の一言がきっかけです。その生徒はたぶん、私のことも、私の人生を変えるきっかけになった一言も覚えていないでしょうけど。口加高校生にも人の人生に良い影響やきっかけを与えられるような人になってもらいたいですね。

